

学 会

東京女子医科大学学会第292回例会

シンポジウム 東洋医学の新たな展開—基礎と臨床から—

日 時 平成4年11月12日(木) 午後3:30~5:30

会 場 東京女子医科大学 第二臨床講堂

司 会 村田 光範教授(第二病院小児科)

代田 文彦教授(東洋医学研究所)

I. 基礎

- | | | |
|---------------------------------|---------|-------|
| 1. 細胞神経障害に対する漢方薬治療の可能性 | 東洋医学研究所 | 後藤 和宏 |
| 2. フリーラジカル消去剤としての柴苓湯を用いた糸球体腎炎治療 | 第四内科学 | 佐中 孜 |
| 3. 柴苓湯によるラット視床下部一下垂体—副腎系への影響 | 第二内科学 | 須田 俊宏 |
| 4. B型肝炎治療における小柴胡湯の作用機序 | 消化器内科学 | 山内 克己 |

II. 臨床

- | | | |
|----------------------------|---------|-------|
| 5. 附属東洋医学研究所の現状と展望 | 東洋医学研究所 | 溝部 宏毅 |
| 6. 中医学における小児科の基礎 | 第二病院小児科 | 村田 光範 |
| 7. ネフローゼ症候群における和漢薬治療の基礎と臨床 | 腎臓小児科 | 伊藤 克己 |

1. 神経細胞障害に対する漢方薬治療の可能性

(東洋医学研究所) 後藤 和宏・
山浦 常・白坂 龍曠

本来、重要な神経伝達物質として働いている興奮性アミノ酸が無秩序に放出された時示す細胞毒性は、脳虚血や重篤なてんかん発作などにより引き起こされる部位選択的な神経細胞壊死に深く関わると考えられている。脳の中でも特に高い脆弱性を示す海馬CA1錘体細胞の障害を保護する漢方薬(小柴胡湯合桂枝加芍薬湯)の機序を追究する中から、虚血後の遅発性神経細胞壊死における異常タンパクの関与を示唆する結果が得られた。異常タンパクの発現制御により、従来困難とされていた障害過程が進行し始めた後から治療を開始した場合にも神経細胞を救い得る可能性について、興奮性アミノ酸による神経細胞壊死発現機構解明の基礎的研究成果を基に考察したい。

2. フリーラジカル消去剤としての柴苓湯を用いた糸球体腎炎治療

(第4内科) 佐中 孜・二瓶 宏

フリーラジカルは、種々の疾患の発症、進展に重要な役割を演じているが、腎疾患も例外ではない。なかでも、糸球体腎炎は、そのような疾患の代表といえる。すなわち、無論、成因によって異なるが、メサンギウ

ム細胞の増殖、好中球・単球の浸潤、免疫複合物の沈着などフリーラジカル産生と関連深い病変が観察される。われわれも、硬化性病変への進展、蛋白尿生成などにおけるフリーラジカルの関与を直接的、間接的に証明してきた。

一方、漢方製剤の一つである柴苓湯は、フリーラジカル消去作用を有する数種の成分を含む。このような柴苓湯は、免疫複合体腎炎に対して、治療効果を発揮するものと推察されている。

そこで、今回は、糸球体腎炎におけるフリーラジカルの産生機序について概説するとともに、柴苓湯の糸球体腎炎に対する治療効果に関するわれわれの基礎的、臨床的な成績について紹介したいと思う。

3. 柴苓湯によるラット視床下部一下垂体—副腎系への影響

(第二内科) 須田 俊宏

柴苓湯には糖質コルチコイド(GC)作用を修飾する作用以外に、下垂体—副腎系に促進的に働く作用があると考えられている。

そこでラットに柴苓湯を投与してみると、血中ACTHおよびコルチコステロンの用量反応的な増加が見られた。この時、視床下部CRFmRNAレベルは有意な変動を示さなかったが、下垂体前葉のPOMCm-